

# 古着の社会学

—循環型社会における古着の可能性—

白鳥颯大

現代社会においてファッションは個々のアイデンティティや文化の一環として不可欠な存在になっているが、現代のファッション産業は急激な速さで新しいトレンドが生まれており没個性化を促進させ、またこの加速したファッションサイクルが衣類の生産と消費も急増させ、大量生産、大量廃棄などの社会問題も引き起こしている。これを受け、環境省は循環型社会への移行を推進し、サステナブルファッションを掲げている。その一つが古着の着用である。そこで本研究では若者の「古着購入行動の本質」について焦点を当て、現代社会においてどのような要因から古着を購入・着用しているかを明らかにすることを目的とした。

1990年代に起こった古着ブームと現代における古着ブームの比較をし、どちらも「他人との差別化意識」が生まれやすい社会であると考えた。そこで「他人との差別化意識」を古着購入行動の1つの要因であると仮説を立て、若者に対してweb上でアンケート調査を実施した。結果として、「他人との差別化意識」、「アイデンティティの確立」、「古着に対する時間的価値」、「狭い社会的ネットワーク」が古着購入行動の要因になっていることが明らかになった。今後はおしゃれやアイデンティティの形成要因としての古着に加え、環境配慮という付加価値をつけた古着を広めていくべきであり、そうすることでブームによって生じた勢いを失わずに2側面を持った古着がより浸透し、多くの人が共通の意識を持ち始め環境配慮意識が高まる。この2側面を持ち合わせた古着は循環型社会において非常に可能性のあるものと言える。